

## 第 71 回焼津市都市計画審議会議事録（概要）

- 1 開催日時 平成 28 年 5 月 13 日（金）午後 2 時から午後 3 時 40 分まで
- 2 会 場 焼津公民館大集会室（アトレ庁舎 3 階）
- 3 出席者 （委 員）  
池田浩敬会長、岩井宏委員、久野匠一委員、西川角次郎委員  
芹澤信子委員、松本修藏委員、齋藤寛之委員、太田浩三郎委員  
石垣俊幸委員（代理）、黒柳康江委員、奈木邦夫委員  
丸山昭夫委員、大石光宏委員  
欠席：石原諭委員
- （幹 事）  
秋山都市基盤部長
- （事務局）  
篠宮都市計画課長、八木計画担当係長、今村計画担当主査
- 4 議 案 議第 1 号「焼津市都市計画マスタープランの策定について」
- 5 議事内容 別紙のとおり

## ※留意事項

本議事録は、会議要旨の概要報告として作成したもので、委員各位の意見及びそれに対する事務局の説明については、要約・省略・補記されている箇所もある。また、事務局の議案説明は省略してある。

## 議 事 内 容

## 【池田会長】

- ・議第1号の「焼津市都市計画マスタープランの策定について」、事務局より説明をお願いする。

## 【事務局】

- ・議第1号の「焼津市都市計画マスタープランの策定について」ご説明させていただく。
- ・本案件は、都市計画法第18条の2の規定による焼津市の都市計画に関する基本的な方針として定めるもので、都市計画で定める案件ではないが、本審議会に付議をさせていただく。

(スクリーンと配布資料により説明)

- ・審議の程、願います。

## 【池田会長】

- ・今説明のあった議第1号「焼津市都市計画マスタープランの策定について」、委員の皆様からご質問等がある場合はご発言をお願いする。

## 【太田委員】

- ・人口減少・超高齢化社会の本格的な到来を踏まえ、各地域の拠点でまちづくりをしていかなないとたないのではないかと。

## 【事務局】

- ・全体構想において、「コンパクト＋ネットワーク」の方針に基づき、都市拠点、生活交流拠点、産業観光交流拠点に都市機能を集約して歩いて暮らせるまちづくりを進めていく。
- ・また、地域別構想では、既存集落等も含め、地域毎の活動拠点に合わせたコミュニティづくりを進めていく。

## 【太田委員】

- ・大井川地区の散居村に都市機能を誘導できるのか。

## 【事務局】

- ・人口密度を保つことが大前提となり、現存する地域コミュニティの中で作りあげていくものがある。

## 【大石委員】

- ・コンパクトシティを進めていくのは望ましいので、1つの拠点に集約させていくことを前面に出したほうが、次世代に向けていいまちづくりになるのではないかと。
- ・焼津駅周辺を中心市街地を含めて、沿岸部中心のまちづくりを進めているが、防災面において沿岸部が地震津波の災害で何かあった場合に西焼津駅周辺などの内陸部を防災拠点とする計画はないのか。

## 【事務局】

- ・焼津市では、旧大井川町との合併もあったので、一極集中ということではなく、それぞれの既存集落というのを大事にしていくコンパクトシティを目指していく。
- ・焼津市都市計画マスタープランにおいては、津波防災対策を具体的に触れておらず、具体的には焼津市津波防災まちづくり推進計画で位置付けしていく。

**【大石委員】**

- ・子どもから高齢者まで、様々な世代の方々が上手く交流することができるような空間や憩いの場など、インフラ整備以外で検討しているものはあるのか。

**【事務局】**

- ・焼津市都市計画マスタープラン地域別構想においては、具体的に各地域の公民館などを活用した地域住民主体の活力あるまちづくりを方針として位置付けている。
- ・そういった中で地域特性を活かし、地域住民主体、子どもから高齢者まで誰もが集い憩うことができ、レクリエーション活動を楽しめる環境づくりを進めていく。

**【久野委員】**

- ・コンパクトシティは大賛成。企業誘致を積極的に推進し人口減少に対応する職場づくりという観点においても産業観光交流拠点づくりを進めてほしい。
- ・海岸線の防災工事など、一般市民にも進捗状況を把握し安心感を与えられるよう、市側からも積極的に防災対策のPRしてほしい。

**【事務局】**

- ・焼津市都市計画マスタープランの土地利用の基本方針において、スマートインターあるいは大井川港に向けて、赤い枠で示しているところは新たな土地利用検討ゾーンということで位置付けており、農業調整が進んだ場合には企業誘致が可能となる。
- ・防災工事については、市としてもできるだけ速やかに正確に情報提供するように考えている。昨今も浜当目トンネル工事では、進捗状況などは市民に公開をするなど市民見学会を開催するなどそういう形でPR活動をしており、防潮堤においても検討していく。

**【丸山委員】**

- ・東益津地区では、花沢の里から高草山、満観峰にかけてのハイキングコースが非常に流行っているが、利用者の割にトイレが少ないので増やしてほしい。そういうことを実行していけば、焼津市都市計画マスタープランは成功するのではないか。
- ・富士山をきれいに見渡せる石津海岸公園を有効活用してほしい。例えば、箱根駅伝に出場している大学に練習の場として誘致活動を行うような視点も焼津市都市計画マスタープランの中では必要だと思う。

**【事務局】**

- ・東益津地域づくり構想において、ハイキングコースの整備という方針を定めているので取組みは進めていくが、トイレの問題については、観光部局担当課と今後調整していく。
- ・大学のクラブ活動の誘致について、焼津市都市計画マスタープランにはそこまでの文言の記載はできないが、このような意見があったことは、市の中で情報共有をさせていただく。

**【齋藤委員】**

- ・農村地域における農業の高齢化の急速な進展で、農業の担い手問題が生じているが、焼津市都市計画マスタープランではどのように考えているのか。

**【事務局】**

- ・農業関係の個別計画の中で対応を考えていく。

**【芹澤委員】**

- ・将来のまちづくりの基本的な考え方について、これから20年後焼津市をこういうまちにしたいという主な中心的な考え方が見えてこない。

**【事務局】**

- ・都市計画に関わらず、福祉、教育などの分野を含め、上位計画となる総合計画の中で、将来のまちづくりの展望を位置付けていく。
- ・総合計画は今年から2ヶ年かけて定めていき、その中でもう少し具体的な将来像が位置付けられ、都市計画に反映できるものがあれば、焼津市都市計画マスタープランも修正を入れていくこととなる。

**【芹澤委員】**

- ・博物館とか美術館とか、芸術関連施設は整備しないのか。

**【事務局】**

- ・焼津市都市計画マスタープランにおいては、直接位置付けしていないが、資産経営課で市公共施設再編計画というものを進めている。その中で、公共施設の廃止、新設、再編、統合を踏まえた上で、例えば博物館などの施設整備の検討もされていく。

**【池田会長】**

- ・都市計画マスタープランは、大きな方向性・将来像を示すものなので、このような形でいいと思われる。
- ・焼津市都市計画マスタープランの中で、まず課題の特定を行い、それをどのような方法で、どのレベルまであげていくのかという部分を分析に基づいて詰めていく必要がある。進行管理ではモニタリングなどを行い、特定した課題がどれ位解消されたのか、広報していくということが必要だと思われる。
- ・コンパクト化は非常に重要で、今後、具体的にどれ位のユニット及び密度で、公共と民間の施設を集約していくのか、焼津市都市計画マスタープランに基づいて突き詰めていく必要がある。

**【池田会長】**

- ・議第1号の「焼津市都市計画マスタープランの策定について」、お諮りするが、ご異議はないですか。

(委員 異議なし)

**【池田会長】**

- ・原案のとおり可決した。この結果については直ちに市長に答申することとする。